

巻頭言 『1点でも多く得点せよ』 [P.1](#)

特集 【座談会】直対期の過ごし方

不安な気持ちに
打ち勝つには [P.3~4](#)

演習は必ず受けるべき [P.4~6](#)

復習方法について [P.7~9](#)

論文式試験に向けて [P.9~10](#)

各担当者からの
メッセージ [P.11~12](#)



ハートは熱く、頭はクールに
二葉 稷

8月の論文式試験が終われば
休息はとれます

年神 亮子



大原の演習は的中する
水野 悦之

他の受験生もマスターして
いる問題をもう一度確認

長谷川 暢



演習受けずして、合格なし
瀧本 祐和

資格の大原2023年受験 全国統一公開模試
論文式第1回:3/31(金)~4/2(日)・短答式:5/7(日)



就職・転職のことなら、多くの法人との信頼関係を築いてきた

『大原キャリアスタッフ』へ



『1点でも多く得点せよ』

直対期を迎えた。だからといって焦って闇雲に学習しても結果にはつながりにくい。この時期の“合格のために必要な正しい努力”とは、得点を意識して学習することである。

令和5年公認会計士試験の第Ⅱ回短答式試験までは残り約2ヶ月、論文式試験までは残り約5ヶ月となった。令和5年試験での合格を目指す受験生にとっては、いわゆる直対期と呼ばれる時期だ。ただし、直対期といっても焦ることはない。これまでの時期との違いは、ほんの少しだけ点数を意識した学習にシフトすることぐらいだ。

公認会計士試験の学習範囲は広くそして深い。やり込めばやり込むほど知的欲求を満たすほどの知識が得ることができるだろう。しかしながら、公認会計士試験は資格試験であり、合格のために必要な学習が求められる。合格のために必要な学習とは1点でも多く得点するための学習だ。

何かに取り組むときは目的を見失わないようにしなければならない。闇雲に学習をしても結果にはつながらない。常に、「何のために」ということを意識して取り組んで欲しい。それが合格のために必要な正しい努力につながる。

試験に出題されることのほとんどがテキストをはじめとする大原の教材に記載されている。直対期にやるべきことは大原の教材に記載されていることを一つでも多く自身の知識として吸収することだ。テキストを読んで知識を蓄え、問題を解いて知識の定着を確認し、知識が不十分なところは再度テキストを読む。この繰り返しである。合格のために1点でも多く得点することを常に意識して学習を継続して欲しい。

[目次へ](#)

特集

【座談会】直対期の過ごし方



2023年3月16日 オンライン会議にて

【座談会出席者】

監査論担当
年神 亮子

財務会計論担当
瀧本 祐和

司会・管理会計論担当
二葉 穰

企業法担当
長谷川 暢

管理会計論担当
水野 悦之

二葉 2023年公認会計士試験もいよいよ大詰めとなつてまいりました。我々資格の大原の講師陣もこれからの直前期に向けてどのような点を意識して学習すべきなのかを常に考え、議論をしております。今回は4名の講師にお集まりいただき、直対期の過ごし方についてお話を伺います。

[目次へ](#)

不安な気持ちに打ち勝つには

二葉 直対期を迎えるにあたって、受講生の皆さんも様々な悩みを抱えられているかと思います。そこで、今日は受講生の皆さんの声を代弁する形でその悩みをぶつけていきますので、適切なアドバイスをお願いいたします。

まず、このぐらいの頃から「不安な気持ちが強くなって、なかなか地に足がつかなくなってしまう」というお声を耳にします。これはすべての公認会計士受験生に共通のことだと思いますが、こうした不安な気持ちに打ち勝つにはどうしたらよいでしょうか。

司会・管理会計論
二葉 穰



年神 不安な気持ちは誰でも持っていますが、それに打ち勝つにはまず、「できること」と「できないこと」をはっきりさせることです。「この問題はできる」、でも「この問題はできない」というように今の自分の実力を客観的に把握するのです。そうすれば、あとは、できない問題や論点を一つずつ潰し、できることを増

目次へ 

やしていけばよいのです。その際に注意していただきたいのは、全部完璧にできる必要はなく、合格に必要な範囲の問題が試験の日までに解けるようになれば良いのです。今、できない問題や論点が多量にあるからといって諦めてはいけません。コツコツと論点を潰し続け、できる論点を増やし続けることが重要です。

水野 不安な気持ちは「これが出たらどうしよう、あれが出たらどうしよう」という気持ちから生まれてしまう訳ですよ。これを考えた瞬間に自分自身が「できないこと」の認識ができたということです。あとはこれをフォローしていけばよい訳です。ただし、すべての科目に試験委員は大勢いらっしゃいますので、決して「端から端まで完璧」を求めてはなりません。ここはこれくらいできるという線引きをして、その認識をすることが大切です。

演習は必ず受けるべき

二葉 演習の結果が出ないことで余計に不安な気持ちが増してきて、演習自体を受ける気持ちが弱くなってしまう方もいらっしゃるようです。

瀧本 演習は実戦練習です。テキストを読んだり、問題集を解いたりするのは基礎練習であり、実戦練習を経て初めて本番で戦えます。基礎練習のみで本番で良い成績を出せる人はごく限られた方のみでしょう。多くの方は、実戦練習を経て本番の感覚をつかむことにより、基礎練習で鍛えた能力を100%発揮することができるようになります。実戦練習をせずに本番で良い成績は出せないのですから、公認会計士試験の学習で

[目次へ](#) 



あれば「演習受けずして、合格なし」ということになるのです。

年神 演習は問題を解くこと自体も重要ですが、より重要なのは限られた時間の中で、全力で問題に体当たりすることだと思います。なぜなら、全力で問題に向き合った時にひと回りもふた回りも成長することができるからです。逆を言えば全力で問題に向き合わなければ本当の成長は望めないということです。ですから、演習はしっかりと受けていただきたいです。大原で実施される演習をペースメーカーにして勉強を進めつつ実力を高め、本番でその実力を発揮できるようにして欲しいですね。

長谷川 演習で重要なのは、結果が出なかったときの原因を検証することです。暗記が不十分だったからなのか、問題文の分析が甘かったからなのか、暗記はしていたけど応用問題に対応できなかったからなのかなど様々な要因が考えられるでしょう。その要因をはっ

きりさせて、次回の演習に挑むことで自分の経験値を高めることが重要です。合格者はこの経験値が他の受験生を上回っているため合格しています。ですから、演習を受けないということは、この経験値を高める機会を放棄していることとなります。貴重な経験の機会を無駄にしないために、どんなにきつくても演習を受けてください。また、解説も必ず受講して、自分では気が付かなかった点を確認しましょう。

瀧本 そうですね。演習は、ただ受ければよいということではありません。特定の演習で点数を取るために、前日にその論点ばかりやるというのはNGですが、普段の学習を疎かにして、ただ何となく演習を受けることもNGです。演習では、演習を実施しているその時点での実力を測り、今後の対策を練っていくことに目的があります。そのためには、基礎練習をしっかりと積んでおく必要があります。

二葉 演習を受けることの目的をしっかりと理解しておくことが大切ということですね。

瀧本 もう一つ強調しておきたいこととして、特に短答式試験を受験される方へのメッセージとなりますが、「論文演習は必ず受講してください!」ということです。皆さんの目的は論文合格です。そのためには、論文式試験の実戦練習を積まなければなりません。また、論文式試験に向けた学習は短答式試験の理解を促進させます。無機質に暗記をするよりも理解したうえで暗記するほうが効率も良くなり、忘れにくくなるはずですよ。

復習方法について

二葉 演習についての復習をどの程度のレベルにまで持っていくべきか、いかがですか？

水野 本試験を終えた皆様とお話をしていると、「あっ、演習で見たことある！って思いました！」や「違和感なく解くことができました」という声をいただきます。それほど大原の演習は的中するので、復習をしていくことによって合格へ最短距離で進むことができます。「演習で出題されたものが、仮に本試験で同じ問題として出題された場合、満点が取れる」という状態にご自身を持って行っていただくことがとても重要です。

年神 問題を解いた後、解答解説を見るので1回。答案が返ってきた時点でもう1回。さらに、演習の1ヶ月後を目安として1回。こうすると約1ヶ月の間に3回確認することになり、ちょっとやそっとでは忘れない記憶となります。この3回は気合を入れて復習して

監査論
年神亮子



目次へ 

欲しいですね。

二葉 では、演習の復習に追われてしまい、テキストにしばらく触れていないという方はどうでしょうか。

年神 まずは、テキストの目次をよく見て、忘れている論点やあやふやな部分を優先的に確認してください。一方、覚えている論点はさっと確認するだけでいいでしょう。試験勉強もリスク・アプローチです。重点的に時間を掛ける部分を誤らないようにしてください。

二葉 テキストは勉強の最重要ツールですね。また、5月短答を受験される方は、どのタイミングから短答科目の比重を高めていくべきでしょうか。

長谷川 短答直対演習が3月から始まっているので、そのタイミングで短答科目の比重を高めていくとよいでしょう。短答直対演習の出題範囲を確認して、時間の許す限り全力で予習をして演習を受けてください。決して苦手分野を後回しにせず、むしろ苦手を払拭するチャンスと考えて積極的に学習しましょう。また、短答の比重を高めたからと言って、論文対策を全くしなくていいという訳ではありません。

論文式全国統一公開模試第1回が3月31日(金)、4月1日(土)、4月2日(日)に実施されます。5月に短答式試験を受験される方は、論文式試験と両方の合格を見据えた学習がとても重要になります。この公開模試や論文演習をきちんと受験して、論文式対策もある程度継続しながら、短答突破を目指す必要があります。

二葉 では、5月短答終了から発表までの期間を、充電期間として休養しようとお考えの方には何かいいア

目次へ 

ドバイスはございますか。

年神 短答式試験当日の試験終了後に自習をされる方はいらっしゃると思います。8月の論文式試験はそんな方と同じフィールドで戦うことになるのですから、この期間休息なんてしてはいけません。8月の論文式試験が終われば休息はとれますし、一生を左右しかねない1ヶ月です。短答式試験終了後は、8月に向けての学習をすぐに開始していただきたいです。

論文式試験に向けて

二葉 最後の最後、論文式試験の直前は、どのような勉強が効果的でしょうか。科目も多く、優先順位がなかなか付けにくいようです。

水野 本試験が近づくとつれて苦手意識をお持ちの科目に多くの時間を使われると思います。ただし、科目ごとのバランスは非常に重要です。栄養バランスが崩れると体調にも変化が生じてしまいます。特に会計士

管理会計論
水野悦之



目次へ 

試験は多科目試験であるので、苦手意識をお持ちの科目だけでなく、順調に進んでいらっしゃる科目に関しても忘却との戦いがあります。それらの科目が衰えないようにバランスよく進めていただきたいです。具体的には、時間で区切って学習を進めていただく、つまり、時間がきたらある程度諦めて次の科目に進む、という学習が必要です。どうしても今やっている分野のきりがよくなってからと思われてしまいますが、きりがよくなってからとすると、例えば、野菜は後回しにして肉を先にどんどん食べてしまうと、結果として、肉だけでお腹一杯になってしまいます。それでは栄養バランスが崩れてしまうということですね。

長谷川 本試験で重要なのは、他の受験生が解ける問題は自分も確実に解けるという状態を作っておくことです。苦手な分野が幾つかあっても、受験生の多くは同じ分野を苦手に行っているのです、ほとんど差がつきません。一番怖いのは、他の受験生が解ける問題を自分は解けなかったという結果になることです。そこで、最後の最後にやるべき事が決まっていな方は、見たことのない知識・問題に手を広げるより、問題集、論文総まとめ若しくは論文演習の問題というように、他の受験生もマスターしている問題をもう一度確認し、穴をなくす勉強をしてください。また、論文式試験では条文が重要な意味を持ちますから、条文の目次を見ながら、どこにどのような規定があるのかを確認しておいてください。

二葉 やはり基本が一番大切ということですね。

目次へ 

各担当者からのメッセージ

二葉 では最後に、一言ずつ受講生の皆さんへエールをお送りいたしましょう。

水野 当日どの教材を持って会場に向かうか？会場に持っていくということはそれ以外は事前に確認する必要がありますね。そうすると、前日にやることは？前々日にやることは？と逆算してみましよう。また、大原の公開模試を1度目の本試験と思い同様に逆算してみてください。本試験までにご自身がやるべきことも見えてくるでしょう。最後に残り1秒まで粘って粘っていきましょう。その粘りが1点でも多く積み重ねる要素となります。

長谷川 暗記したことをすぐに忘れてしまう、同じミスを繰り返してしまうというのは誰もが抱えている悩みです。重要なのは、「忘れては暗記する」「ミスした原因を探る」ことを繰り返すことができるかどうかです。それさえできれば合格できるといっても言い過ぎ



企業法
長谷川 暢

目次へ 

ではありません。実りある単純作業と割り切って根気よく続けてください。

年神 試験を突破するために、本試験までの限られた時間の中で、できるだけ多くコツコツと「得点できるような実力」を培ってください。特定の論点にこだわりすぎることなく、バランス良く蓄えていきましょう！

瀧本 合格に必要なものは、絶対に合格するという強い気持ちです。本試験当日に最高の結果を勝ち取れるように、最後まで走り切りましょう！

二葉 気持ちだけ焦っていても正しい勉強はできません。また、綿密な計画を描いても実行する気持ちが無ければ机上の空論で終わります。“ハートは熱く、頭はクール”に、最後まで頑張ってください。

では、以上で終わります。ありがとうございました。